

乗雲

寺報

第100号

H30.2.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広厳寺
住職 神田英俊

メール

otera@kogonji.jp

三福田の教え

敬田 恩田 悲田

お釈迦さまは人間の心を田んぼに喩えられました。僧侶が身に付けるお袈裟は田んぼの形をしています。あぜ道と耕した田んぼです。農夫は一生懸命に心を込めて田を耕し、肥料をやり、毎日の手入れを怠らず、春には種を蒔き、秋には実りを得る。同じように私たちは心の田を耕し、幸福を得る努力をしなければなりません。

仏教では心の田を耕す方法を三つ教えています(三福田)。第一は、「敬田けいでん」。この世のすべてのものに敬いの心を持ち、感謝を惜しまないこと。第二は、「恩田おんでん」。僧侶がご本尊さまに対して経を読むときには、「四恩すべて報じ・・・」とお経の

後で回向文を唱えます。四恩とは、**国王の恩**(国家社会の恩)、**衆生の恩**(一切の命あるものへの恩)、**三宝の恩**(仏・法・僧の三宝の恩)、**父母の恩**(父母の恩ほど大きいものはない。そのまた祖先の恩も忘れてはならない)人は自分一人では生きられません。多くの人に支えられていることを自覚し、四恩始め、あらゆるものにお陰さまの心を持つことが恩田です。



袈裟(五条衣・絡子)

第三は、「悲田ひでん」。苦しんでいる人に慈しみの心を持つ

つて接すること、他の人の悲しみを自分のこととして感じとることです。

よい種をまこう

よい種をまこう よい種をまけばよい花が咲き よい実がみられるよいい種をたくさんまこう 地球が花につつまれ みんなのしあわせが たくさんみられるように よい種をもつともつとまこう いのちあるうちに たくさんまいておこう

「よい種」とは仏さまの教えのことです。心の中にある仏さまの種で、「三福田」という三つの田んぼを大事に丁寧に育てていくことが私たち仏教徒のつとめであります。我が心の中の田んぼを耕しましょう。たくさんよい種を蒔きましょう。よい実がみられるように。そして、一番大切なこと、お釈迦さまが喜ばれることは、その仏さまの種を自分だけでなく、みんなに分けてあげることです。この世のすべての人に福徳をもたらしましょう。

平成三十年年度年回表

〔回忌〕

〔没年〕

一周忌	平成二十九年
三回忌	平成二十八年
七回忌	平成二十四年
十三回忌	平成十八年
十七回忌	平成十四年
二十三回忌	平成八年
二十七回忌	平成四年
三十三回忌	昭和六十一年
五十回忌	昭和四十四年
百回忌	大正八年

▼平成三十年年度の年回忌表です。正当各家には昨年十一月に通知していただきますのでご確認ください。▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「一周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。